

印西大師 第75番 松虫・松虫寺

1 名称 (No.075)〔手引鏡：松虫寺〕〔資料館：松虫寺〕〔行程表：松虫寺〕

2 場所 印西市松虫7 松虫寺

萩原・観音堂から道程約2700m、

権現下から道程約1750m

GPS座標 35.78946229076562, 140.21485793068686

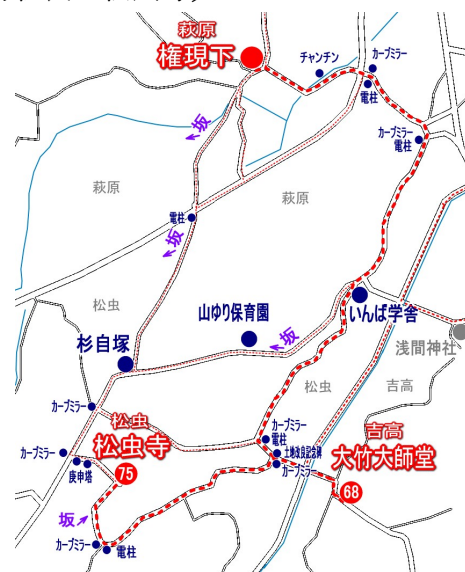
3 由緒 真言宗豊山派 摩尼珠山 医王院 松虫寺

松虫村字堂前にあり真言宗にして中本寺実蔵院末なり 七佛薬師如来を本尊とす 夫れ本尊薬師如来は往古萩原郷出戸に安置す 其の原由は詳ならず 然りして当地へ本堂創立の所以は薬師畧縁起尚郷里の口碑に曰く 人皇四十五代聖武皇帝の御宇天平年中の頃第三皇女松虫姫御発病 然るに該症最も軽からず 時に天平十七年二月七日の夜当薬師如来夢中に告ぐ 之に依りて深く薬師を念じ玉ふ 該疾速やかに平復す 然れば聖武天皇大に薬師の利験を尊崇し形像六軀を彫刻し七仏薬師となさんと僧行基に勅命す 行基僧正命を奉じて自ら形軀を彫刻す帝之を当地へ納む 且本堂僧坊御建立あつて始めて萩原郷出戸を改めて松虫村と名く 寺を松虫寺に号す 又本尊へ功德田十二町下賜る 而して当寺の如きも昔時は結構荘厳なるものと見え本坊の外に数多付属の寺院之あり由にて近傍の廃跡他十二ヶ所これあり代わるに世移り時変じて右功德田の如きも現時村民の所有に属すと雖旧号今に存せり・檀徒129人（印旛郡誌）

4 御堂 大師堂の中に丸彫りの御大師様が2体あり。

5 境内 本堂、仁王門、鐘楼、彼岸花や庚申塔もあり、また、駐車場やトイレもあつて参拝しやすくなっています。お隣は松虫姫神社です。

6 写真 (2023.01、2023.03撮影)



大師堂



御大師様 (左)



御大師様 (右)



山門



本堂と枝垂れ桜



弘法大師像

7 情報

(1) 印西大師 第75番 松虫寺 御詠歌（泉倉寺本による）

我住まばよも消果てじ善通寺 深き誓の法の燈(ともしび)

四国八十八ヶ所 第75番 真言宗善通寺派 五岳山(ごがくざん) 誕生院 善通寺(ぜんつうじ) 写し

(2) 七仏薬師

国指定文化財である七仏薬師像は、坐像を中心に立像が三軀ずつ左右に並んでいます。平安初期の古様像を典拠に12世紀頃に製作されたものと考えられ、着衣の形において中尊坐像と立像に違いがあること以外、作風や顔の形は全く同じで、同じ仏師によって一具のものとして作られたようです。

松虫寺のように坐像と立像の組み合わせは他に例がありません。古い様式の七仏薬師は、全国的にみても珍しく、ここ松虫寺と鶏足寺（滋賀県）だけです。



なお、台座の裏には墨で眉、眼、唇、髻などの落書きが見られます。像高は中尊坐像が54.3cm、立像はいずれも38cmの小像群です。

この仏像は、33年に一度御開帳を迎える秘仏とされています。直近の御開帳は2012年11月18日でしたので、次回は2045年の御開帳になります。（千葉県公式観光物産サイトより）

(3) 松虫寺について

当寺の創建は奈良時代の天平15年（743）、聖武天皇が僧行基に命じて創建されたと伝えられています。はじめ三論宗のちに天台宗、そして真言宗豊山派に所属し現在に至っています。山号は摩尼珠山（まにしゅざん）と称し、寺号は松虫寺（まつむしでら）と言い正式には摩尼珠山医王院松虫寺と申します。

寺伝によれば聖武天皇の御代、皇女松虫姫（不破内親王）が重い病を患われ、不思議な夢のお告げにより下総に下向され萩原郷に祀られていた薬師仏に祈り重患平癒した事を喜ばれた天皇が僧行基に命じて七仏薬師を謹刻すると共に一寺を建立し、姫の御名から松虫寺と名付けられました。

現在の本尊は、平安後期に改刻された七仏薬師群像で藤原彫刻の特色を伝える優像として昭和34年に国の重要文化財の指定を受けました。框材を用いた一木造りの彫眼像で彩色は施されていません。現在は保存庫としての役割を担う瑠璃光殿に安置されています。

南面する建物、仁王門と薬師堂は江戸時代の享保3年（1718年）に八代将軍吉宗公の援助を受け江戸板橋の大工 源太夫によって改築されました。

「摩尼珠山」の山号額は讃州松平家の儒者 佐々木 文山の筆。

薬師堂の扁額「瑠璃光」は釈 雲照の筆。

瑠璃光殿の掲額は真言宗豊山派管長 故平林 有高大僧正の染筆。

西面する四脚門と本堂は慶応元年(1865)年の建立で本堂内には阿弥陀如来、不動明王、松虫姫尊像をお祀りしています。

薬師堂の裏手にある松虫姫御廟は姫薨去の際、遺言によりご遺骨を分けて埋葬されたものと伝えられています。

境内の六所神社と松虫姫神社は、松虫寺が別当として管理していましたが明治の神仏分離令によって神社の所管に移されました。

松虫寺には什物として南北朝時代の鑄銅孔雀文磬（県指定文化財）戦国時代末期の天正13年（1585年）に奉納された鰐口及び同時代の三具足や江戸末期 狩野 栄保作の涅槃図。近代を代表

する鑄金家 香取 秀真作の寺院などが伝えられています。

境内の老銀杏は、松虫姫帰京の際に記念として寺庭に挿していかれたものが根付いたものと言われ当山境内に於いて最古の老樹として姫の伝説を今に伝えています。

尚、松虫姫に関する旧跡は松虫の地名と共に付近に現存しており里人に語り継がれています。

(以上、松虫寺HPより)

(4) 松虫姫伝説

印旛地区の松虫という集落にある松虫寺。天平17(745)年、僧行基による開創と伝えられ、その縁起に「松虫姫」の伝説が伝わっています。聖武天皇の第三皇女、不破内親王(松虫姫)が重い病気にかかったある晩、姫の夢に薬師如来が現れ、「われは下総の萩原の出戸(でと)の薬師である。なんじの病はわれのところに来て祈れば平癒しよう」と告げました。そこで天皇は、行基らを従者にして姫を下総に下向させました。姫は薬師如来に参拝し、道中に使っていた銀杏の杖を庭に刺して祈りを続ける傍ら、村人たちに文字の読み書きや裁縫、蚕の飼い方、機織りの技術などを教えました。数年後、姫の病は全快し、それを喜んだ天皇が建立した寺は、姫の名にちなみ「松虫寺」と名付けられ、土地の名前も「松虫」となりました。姫が都に帰る際、突き刺した銀杏の杖は根付き「御杖(おつえ)の銀杏」と呼ばれるようになり、また、乳母の杉自(すぎじ)と都から姫を乗せてきた牛は、そこに残されることになりました。牛が姫との別れを悲しみ、近くの池に潜って死んでしまった所は「牛潜(うしむぐ)りの池」と呼ばれ、現在ではいには野地区の調整池となり、また、寺の北方200mの所にある「姥塚(うばづか)」は、杉自の墓と伝えられています。都に帰った姫が亡くなる際、遺言により松虫寺に分骨され、寺の後方に葬られた所が「松虫姫御廟(まつむしひめごびょう)」で、現在でも大切にされています。松虫姫伝説は、都の文化が東国にもたらされたことを伝える意義深い話といえるでしょう。(2023.05.01広報いんざい「ふるさと探訪タイムスリップ・インザイ」より)

8 関連Web

○松虫寺 <https://matsumushi.com/>